

令和6年度第1回安城市ごみ減量推進委員会 次第（結果）

令和6年7月29日（月）午後2時～
安城市役所 本庁舎3階 第10会議室

1 委嘱状交付

2 市長あいさつ

3 会長・副会長選出

会長：杉浦ひろ子委員

副会長：馬場敏夫委員

4 諮問

一般廃棄物処理手数料の改定について

5 安城市ごみ減量推進委員会について（資料1）

6 議事

（1）一般廃棄物処理手数料の改定について（資料2）

【承認】

○改定の検討対象を処理施設への搬入手数料とする。

○次回委員会で事務局から案を示し、それに基づいて検討をする。

【委員からの質問・意見】

（質問）他市からの事業系ごみの流入の懸念について話があったが、市外からでも安城市内のごみ処理施設等に搬入できるのか。

（回答）発生した市で処理することが原則であり、事業系ごみも他市から安城市には搬入できないことになっている。家庭系ごみは搬入者の免許証等を確認することで市内で発生したごみであることを判断できるが、事業系ごみは収集運搬許可業者が各排出事業者から回収したものを施設に持ち込むので、他市のごみの混入を完全に防ぐことは難しい状況にある。

(2) フードシェアリングサービス「Anjo^{アンジョウ}たべRing^{リング} by^{バイ}タベスケ」におけるロゴデザイン等について（資料3）

【承認】

○名称：案3

○ロゴデザイン：案1

【委員からの質問・意見】

（質問）フードシェアリングサービスについて、ホームページに載ってはいるが、一般の人たちはどうしたら知ることができるのか。また認知度はどのくらいか。

（回答）令和4年の4月の開始時に広報へ掲載した。10月の食品ロス削減月間には安城ホームニュースへの掲載、アンフォーレでの関連図書とのコラボ展示、SNS等での通知なども実施、他にアンディの展示コーナーにチラシを置く等の啓発を実施している。認知度は把握していないが、登録者が1,700人ほどで、もう少し周知を強化する必要があると考える。

（質問）前回の委員会資料で姫路市と実績等を比較しているが、なぜ姫路市なのか。

（回答）姫路市はタベスケのシステム開発にも協力しており、協力店・ユーザー・取引数の全てにおいて実績がある。安城でも多く利用してもらえるような方法を検討するため、比較して参考にしている。

利用が無いということは食品ロスが防げているとも考えられ、利用が多いから良いとは一概に言えないが、食品ロスが出てしまうお店には利用してもらい、市民の方に購入していただきたい。

7 報告事項

(1) 令和5年度の事業実績について（資料4）

【委員からの意見・質問】

（質問）令和5年度に家庭系ごみの排出量が減っているが、その要因としてどのような推測をしているか。

（回答）令和2年度にコロナが発生して以降、大きく生活様式が変わり家庭で過ごす時間が長かったのが、令和5年度より外に出る機会が多くなってきたことや、最近の物価の高騰による買い控えが大きな理由ではと考えている。

（質問）まちかど講座のごみの話は、何回くらい開催されているか。

(回答) 町内会様や団体様からのご要望を受け開催している。昨年度は20回実施。

(意見) 市民がごみを減らそうと考える家庭系と市民が直接関われない事業系では、ごみを減らすためのアクションの仕方が変わってくるので、まずは次の戦略につなげるための分析をすると良いと思う。それが市の判断や施策に繋がっていく。

(回答) 今後分析して進めていきたい。

(2) 令和6年度の主な施策について (資料5)

【委員からの意見・質問】

(質問) ペットボトルの回収場所の拡大とあるが、ダンボール・びん・缶のスーパーでの回収はできない理由があるのか。

(回答) ダンボール・びん・缶はごみステーションで回収をしているが、ペットボトルはごみステーションで回収することが難しく、拠点回収のみになってしまうため、その拠点を確保する必要がある。スーパー等をお願いをするという形で拡大を進めていくことになる。

(意見) ペットボトルの削減として、マイボトルの利用推進を民間事業の中で働きかけていきたいと思っている。行政としても何らかの支援をいただきたい。

(回答) 金銭的なことはすぐできるようなことではないので、マイボトルを使ったごみ減量のPRなど協力できるところからしていきたい。

8 その他

(1) 令和6年度委員会開催予定

第2回 令和6年10月18日(金)

第3回 令和6年12月20日(金)

第4回 令和7年2月18日(火)

(2) 組成分析見学会

令和6年11月予定